



College report

vol.16
2017.5

臨時号

東京聖栄大学報

学校法人東京聖栄大学新体制



田所忠弘
新学長



福澤美喜男
理事長



● CONTENTS ●

田所新学長挨拶／学部長挨拶……………	2	名誉教授称号授与／人事……………	4
学科長挨拶／学長退任の挨拶……………	3	担任紹介／博士号取得……………	4

田所新学長就任

学校法人東京聖栄大学は、平成29年4月1日開催の理事会において福澤美喜男氏を理事長に選任（再任）いたしました。任期は4月1日から4年。また、松本信二学長が任期満了を迎えることから、昨年、学長候補者選考委員会を設置し、次期学長として田所忠弘教授（学部長）が選出されました。その後の理事会・評議員会にて承認され、4月1日付で新学長に就任されました（任期4年）。本学園は創立70周年の新しい年度を、福澤理事長、田所学長のもと新体制でスタートしました。

役員紹介

	氏名	職務分担
理事長	福澤 美喜男	(法人統括、わたなべ幼稚園担当)
常務理事	田所 忠弘	(教学担当) 学長 理事長補佐
	高橋 成彰	(総務担当) 法人事務局長・大学事務部長
	村上 秀男	(財務担当) 法人相談役
理事	阿左美 章治	東京聖栄大学附属調理師専門学校長
	松本 信二	(学事担当)
	鈴木 忠義	(理事長特命担当)
	有馬 克彦	(理事長特命担当)
監事	渡邊 由美子	(理事長特命担当)
	飯島 満信	
	中村 甫尚	

(平成29年4月1日現在)

学長就任の挨拶

「食と健康追究に夢と自信」を 皆で共有しよう

学長 田所 忠弘



今年度本学園は、創立70周年の佳き節目と平成17年の大学新設から早13年の歳月を迎えました。これまで現理事長福澤美喜男氏が初代学長として、2期勤められ、本学発展の礎を強固なものにされました。その後、松本信二氏が第2代学長として手腕を発揮され、社会における食の専門大学としての本学存在認知度を確固たるものにいたしました。私は第3代目の学長として持続的維持と、さらなる大学発展のためにご推挙賜りました。和の精神を基本とした建学の精神、誠意、熱意、創意の三意の校是を踏まえた食の専門家育成に、より輝きを持たせつつ、これまで栄養、食品そして食と健康に携わってきた学理追究の経験も生かしながら新しい時代を迎えた社会に相応しい知と技（理と道）の再構築を含め本学の発展に最大限の努力を傾注したいと考えております。大学進学学生数激減の厳しき時代とは言え、研究力と高い技術と専門性教育を旨とする特徴ある健康栄養学部を配した大学ゆえ、食の科学性と食への感性を融合しながら着実な歩みと学芸の教授を図る限り常に進化し続ける大学であると理解いたしております。

本学充実発展の歩みのもと卒業生の数も着実に増加しており社会、とくに食分野における卒業生の方々の活躍も脚光を浴びるようになっております。よって、教育・研究を踏まえた本大学の質の向上努力は、学生達への知識基盤を確固たるものとすると同時に小規模大学ゆえの豊かな人間性教育を引き続き行っていくことにあります。また、さらに卒業生との交流にもより強固な絆を付与できるように在学生・教職員・卒業生の一環した循環型の安定基盤の充実化を目指しつつ、大学の位置づけとして重要な地域や社会そして国際交流への橋渡し貢献などに一層の邁進を図りたいと思います。一学部二学科と専門調理師学校附属体制大学の特徴を前面に押し出しながら教職員の人事交流の活性化も踏まえ、すばらしい大学への飛躍に繋げていければと考えております。どうぞこれまでも増して皆様方のご支援、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます、学長就任のご挨拶とさせていただきます。

学部長就任の挨拶

食を通じて健康な生活を！

健康栄養学部長 丸井 正樹



世界一の長寿国日本が力を注いでいるのは健康寿命を延ばすことです。医療に頼らずに元気に生活する、これはみんなの願うところです。この命題に取り組み、科学し、実行するのが東京聖栄大学健康栄養学部です。良質の食品と栄養バランスのとれた食事がわれわれを健康に導いてくれます。食品学科では、安全な、美味しい、かつ質の高い食品の製造・流通について科学し、管理栄養学科では、個々の人に応じた食事の在り方を科学的根拠に基づき指導する方法を研究しています。この2つの学科で構成される健康栄養学部は、長く健康でいられる食生活を追求する学舎です。ここで学ぶ学生は、2分野のそれぞれのスペシャリストとなり、共に一体となって健康な食事をサポートすることになります。

食育は健康な食事を推進するうえで力を発揮します。健康栄養学部は地域の人たちとともに食と健康を考え、豊かな食生活を送れるように地方行政と連携して食育活動を行なっています。農産物の質の向上、地元産物を使った商品開発、食関連イベントへの参加協力にも学生たちが積極的に取り組んでいます。学外での実践的活動は、多くの人とのコミュニケーションの大切さを知るだけでなく、学内で学ぶことの意義、重要性を認識することができます。これにより学生たちの研究活動のモチベーションが高まり、レベルの向上へと繋がっていきます。

健康栄養学部は、良質な食品を社会に提供する食品技術者を育てることで、また、栄養バランスのとれた食事を提案する管理栄養士を育成することで人々の健康に貢献できるように力を尽くします。

「食」の未来を創造できる人材の育成をめざして

管理栄養学科長
鈴木 三枝



13期新入生の皆さんご入学おめでとうございます。また、在校生の皆さん進級おめでとうございます。新入生の皆さんは、管理栄養士免許取得を目指して学科を選択し、卒業時には国家試験受験への挑戦権を得る訳です。晴れて管理栄養士免許が得られれば、更に挑戦できる資格もあり、職域は大きく広がります。それには、目標達成のためのモチベーションを保つ努力を忘れないでください。

全ての科目が、健康・栄養に関する専門的知識と技術・技能を身に付けるためのものです。臆せず向き合い積極的に取り組んでください。私たち教職員は、学生と共に学ぶ準備ができています。知りたいという意欲を支援する準備もできています。管理栄養学科は、食べ物のための学問（主に食品を調べる）・メカニズムのための学問（主に動物や細胞を調べる）・利用のための学問（主に人を調べる）の3本柱から学問構造が成り立っています。それぞれの分野は学年を重ねるごとに専門性を増し、応用力のある専門職として社会に貢献できる人材育成を願うシラバスは作られています。また、栄養教諭をめざす学生のために教員免許証（栄養教諭一種免許証）を取得することができるカリキュラムが設定されています。在学中に、色々なことに挑戦し心と体の健康管理を自ら行える学生になり、社会に巣立ってください。

新時代の教育・研究の活性化をめざして

食品学科長
荒木 裕子



学園創立70周年の記念すべき本年の4月から、田所学長、丸井学部長の新体制のなか、食品学科長を努めさせていただくことになりました。本学の発展と教育の充実に寄与できますよう努めさせていただく所存です。

食品学科では、食品業界の幅広い分野で活躍できる人材の養成教育を進め、食品の専門家となる多くの卒業生を社会に送り出しております。さらなる食品学科の学びを充実させるためには、めまぐるしく発展変貌を遂げる食品業界において、どのような人材が社会が求めているかを正しく把握し、その流れに乗り遅れない学びを学生に提供していく必要があります。また、社会構造が変化していくなか、新しい技術等を社会実装に繋げる人材育成が産業界に望まれています。そのためにも、サイエンスコースとビジネスコースの特徴をさらに明確にし、将来の進路とその目的を実現できるようなカリキュラムの再構築を検討していく必要があると考えます。

研究の分野では、受託研究の一環として福島県塙町や葛飾区との研究を推進しており、今後は教員の研究活動を活性化させるためにも企業との連携にも力を入れたいと思います。

学生諸子の4年間の学びを心から応援し、未知なる食の可能性にむかって新時代のリーダーとなる人材を育て、社会に輩出できるよう食品学科教員一同、力を合わせ取り組んでまいります。どうぞ、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

退任のご挨拶 松本 信二



本学に赴任して以来、12年の歳月が流れました。最後の4年間は学長として過ごさせていただきましたが、この間皆様から頂いたご支援に対し衷心より感謝申し上げます。

振り返ってみますと、大学にとって初めの6年間は厳しい時期でした。特に大学経営の基盤となる学生定員を満たすことが出来なかったことが挙げられます。管理栄養学科は創設以来定員を確保していたものの、食品学科は6年間定員不足状態が続きそのため学部定員が満たされず、私自身食品学科の教員として、何とかしなければと思いながら改善が進まず、申し訳なさと、焦りがあった数年間でした。

改めて現状を見ますと、学生の定員を確保していること、管理栄養士国家試験の合格率の高いこと、就職状況も申し分の無いことなど、数字的には落ち着いたように見えます。ここまでたどり着くには学生諸君の勉学への真摯な取り組み、教職員による懸命の指導、さらには後援会、聖栄会、地域団体などステークホルダーの方々のご支援を頂くことにより、本学の充実度を上げて来られたものと感謝しております。しかし、これからのことを考えますと必ずしも平坦な道ばかりとは思えません。もう既に少子化の時代を迎え、本学に限らず大学全体にその波が押し寄せてきております。この波を乗り越える為には、理事長、学長を牽引役とし、これまで同様に智恵を出し合い、力を結集することにより、さらなる充実した大学として発展されることと願っております。

名誉教授称号授与

平成29年4月1日付で、松本信二先生（前学長）、阿左美章治先生（元健康栄養学部長）に本学名誉教授授与と規程に基づき、名誉教授の称号を授与することに決定しました。

松本信二先生は、東京聖栄大学開学以来、12年間に亘り本学園に勤務し、教授職として教育研究に専心されました。また、その間、多くの学内要職を務められ、特に学長として卓越した指導力を発揮されました。〈農学博士、研究分野：食品学・食品加工学〉

阿左美章治先生は、47年間に亘り本学園に勤務し、そのうち25年間は教授職として教育研究に邁進され、多忙の中にあっても多くの学内要職を務められました。〈博士（農芸化学）、研究分野：生化学・栄養学〉



松本信二先生
(前学長)



阿佐美章治先生
(元健康栄養学部長)

人事

教員 平成29年4月1日付

学長 田所 忠弘
健康栄養学部長 丸井 正樹
管理栄養学科長 鈴木 三枝
食品学科長 荒木 裕子
図書館長 筒井 知己
国試対策室顧問 阿左美章治
国試対策室長 渡辺 順子
臨地実習センター長 高橋 祥子
管理栄養学科幹事 宮内 真弓
食品学科幹事 岡本 直也

委嘱

コンプライアンス推進責任者 丸井 正樹
研究倫理教育責任者 丸井 正樹
危険物取扱責任者 鈴木 等(5月1日付)
海老澤隆史(5月1日付)

昇任

大学

准教授 大塚 静子（講師）〔研究分野：食生活学、環境生理学〕
吉田 光一（講師）〔研究分野：食生活学〕
助教 吉田真知子（助手）〔研究分野：食生活学、応用健康科学〕
海老澤隆史（助手）〔研究分野：食品科学〕

採用

大学

教授 北村 義明
平成4年3月 博士(農学)
(筑波大学)



北村義明教授



小林陽子准教授

前職：国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合
研究機構 研究領域長
研究分野：応用微生物学、
応用生物化学、食品化学

准教授 小林 陽子
平成25年3月 修士(心身
健康科学)(人間総合科学
大学)
前職：帝京平成大学 健
康メディカル学部健康栄養
学科 准教授
研究分野：応用健康科学、
食生活学、衛生学・公衆
衛生学

助手(任期制)

管理栄養学科：佐久間俊幸

柴田 隆一

中村 麻衣

食品学科：高木 智弘

上條 優衣(5月8日付)

非常勤講師

勝部 雅史(保健・福祉概論)

後藤亜由美(体育実技)

高嶺 由梨(体育実技)

退職 平成29年3月31日付

(教員)

大学

学長 松本 信二

教授 阿左美章治

准教授 新村真由美

助手(任期制) 小田亜紗子

専任委嘱：新規 平成29年4月1日付
大学

特任教授

新村真由美(地域連携センター所属)

職員

採用 平成29年4月1日付

法人

事務局長付(秘書業務担当)

名本 知紘

企画調整室 小池 直輝

大学

大学事務部 学務課 大野まり菜

(臨時職員)

保健室看護師 渡部久美子(3月14日付)

退職 平成29年3月31日付

法人

企画調整室 田中 祐平

配置換え 平成29年4月1日付

大学

大学事務部 学生支援センター

学生支援・就職支援課

主任 矢作 秀代

(管理栄養学科：助手)

訃報

大学

教授 橋場 直彦(享年62歳)

病氣療養中のところ平成29年4月

23日逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

担任紹介

管理栄養学科

一年担任 宮内 真弓准教授

副担任 矢島 克彦助教

二年担任 高橋 祥子教授

副担任 小林 陽子准教授

三年担任 風見 公子准教授

副担任 星野 浩子助教

四年担任 岡田 弘教授

副担任 植松 節子准教授

食品学科

一年担任 吉田 光一准教授

副担任 海老澤隆史助教

二年担任 鈴木 等准教授

副担任 山本 直子助教

三年担任 伏脇 裕一教授

副担任 片山 佳子講師

四年担任 荒木 裕子教授

副担任 福田 亨准教授

吉田真知子助教博士号取得

本学の前身である、聖徳栄養短期大学を卒業した吉田真知子助教が、本年3月、博士号を取得しました。[大妻女子大学人間文化研究科人間生活科学専攻博士後期課程修了 博士(生活科学)]

吉田助教は、平成14年3月短期大学卒業後、16年に学士号

取得、25年に修士号取得と学位等の取得と研究を重ね、この度、博士号を取得されました。

職歴では、平成15年4月に聖徳栄養短期大学副手として入職後、平成17年に本学助手となり、本年4月に助教に昇任しました。

発行 東京聖栄大学

〒124-8530 東京都葛飾区西新小岩 1-4-6

TEL: 03-3692-0211 (代)

URL <http://www.tsc-05.ac.jp/>